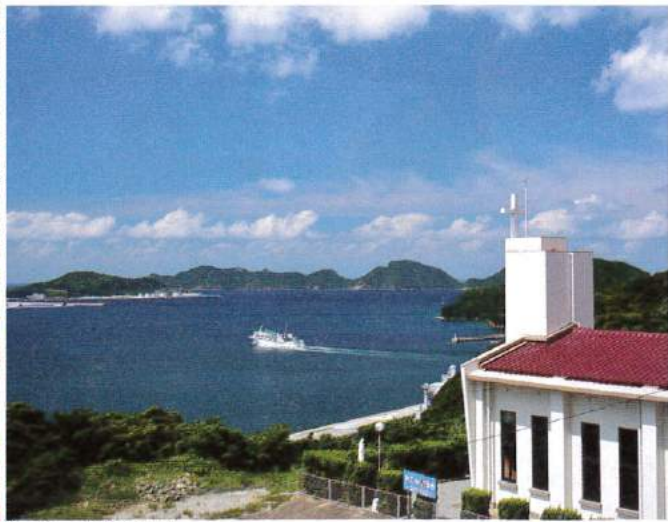




久賀島：牢屋の宍道教団教会と数椿



中通島：跡次教会と海

また島であることから水産業が基幹産業となっています。また、有名な五島牛などの畜産や農業など、1次産業が生活に直結しています。現在は水産業の衰退で地域の雇用状況が悪化し、若年層が島外へ流出する傾向にあり、また島内に帰ってくる人が少ない原因となっています。水産業における環境は非常に難しい状況に直面しています。水揚げが良くても島内人口が減少してくれば、当然島の島内消費が下がり魚価は低迷します。一方、島外へ送ると離島ハンディとなる本土までの運賃分が価格に反映されてコスト高となり、他の地域との価格競争で負けてしまっています。特に鮮魚は鮮度が命のため、近県への輸送が多くなり、地産地消型の消費マーケットになります。しかし人口分布が都市集中型の現代においては、近県による地産地消だけでは消費が少なく、経済効果が拡大しないのが実情です。

加えて、五島列島の漁師の多くは60歳以上と高齢化を迎えています。後継者がいないのです。港に停泊している漁船の半分は廃船となっている状況です。

さらに、ここ数年の温暖化傾向にあつて近海から魚が減少しており、また海が磯焼けをしてしまい藻が生

えてこない影響で魚が減少しています。海水の温度上昇により、南方でよく見られる魚が水揚げされるなど、魚種の変化もあり、自然環境面でも以前より厳しい状況となっています。東日本大震災以降、この地域でも水揚げ魚種に変化がありました。ですが、五島列島は日本でも有数の漁業に適した自然環境を持った地域です。厳しい状況とはいえ水産業は日本でも有数の好条件にあります。

福江島：福江魚市セリの風景



画像：©五島列島支援プロジェクト

「五島列島支援プロジェクト」が目指すもの

五島列島支援プロジェクトは、五島列島の地域振興活動を行っています。農水産物の首都圏流通や水産物のブランディング、観光誘致や観光地紹介、文化的景観保全の観点からのカトリック教会の保全などを中心に活動をしています。

その中で地域に一番必要なことは

寄稿

1次産業と地域社会を活性化する試み

「五島列島支援プロジェクト」の展望

株式会社パーソニック代表取締役 小島由光



「産直」への取り組みは、産地の1次産業と結び付きを深めることだ。その第一線に立った活動には、現地の自治体、生産者との交渉を重ね、物流を構築するための志が重要となる。これら一連の活動を五島列島で行っている小島由光氏より、活動の全体像と展望について論述していただいた。

私が「五島列島」に着眼した理由

九州は長崎の西に位置する離島である五島列島。私が初めて五島列島に行ったのは今から約5年近く前、祖父が生まれ育った島である久賀島を訪れることが目的でした。祖母は奈留島出身です。五島列島は自然環境が豊かで、特に東シナ海に面して黒潮が入る地理的条件は、日本でも有数の漁場である水産業を主とした食材の宝庫と呼べる島です。農業、畜産も盛んで自然の豊かな恵みを感じるにはぜひいたくな環境です。また観光ガイドなどに掲載されていない地域でも、風景は島独特の絶景を見ることが出来ます。

地理的条件によって昔から海外貿易の玄関口となっていた五島列島は歴史を振り返っても知的好奇心が騒ぐ魅力的な所です。

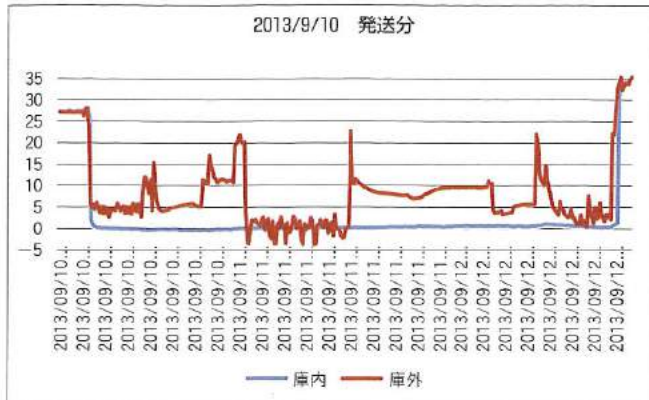
そんな魅力的な五島列島も深刻な状況に直面しています。人口減少による過疎化と高齢化により、地域が年々疲弊していることです。全国的に多くの地方で、過疎化と高齢化により地域産業が厳しくなっています。

五島列島は離島であるが故に、より厳しい環境にあります。若者が高校、大学と進学するために島を離れ、そのまま就職、結婚をして島に戻ってくる若者が少なく、過疎化と高齢化が同時に進んでいます。仕事が少ないため島に戻ってこれないのが現状です。また、世界遺産暫定登録リストに入っている教会群など、五島列島で受け継がれてきた歴史そのものが、人口減少による過疎化と高齢化によって継承するのが困難な状況にありました。

私にとって五島列島は先祖が生まれ育った地です。多くの苦難を乗り越えて開拓してきたこの地にある素晴らしい環境と歴史を風化させないためにも、五島列島の地域活性化を目的として「五島列島支援プロジェクト」を立ち上げました。

五島列島の1次産業特に水産業の状況

前述したとおり五島列島は1次産業が主な産業であり、中でも海に開



五島一東京 鮮魚輸送時における温度帯検証
長崎県五島振興局水産普及指導センター



ロゴマークをつくり五島列島奈留島の鮮魚をブランディング

生産地側は五島列島の各水揚げ港
については一本釣り、定置網、巻き
網など漁獲方法によって水揚げされ
る魚種が違ってきます。また、天候
によって水揚げ量も変わり、毎日魚
種や大きさも全て違います。価格も
相場によって毎日変動します。自然

「五島列島水産流通」を
飲食店へ直送

生産地側は五島列島の各水揚げ港
については一本釣り、定置網、巻き
網など漁獲方法によって水揚げされ
る魚種が違ってきます。また、天候
によって水揚げ量も変わり、毎日魚
種や大きさも全て違います。価格も
相場によって毎日変動します。自然

取扱先の開拓です。当社は創業から
14年営業している外食・飲食店コン
サルティング会社なので、業務の取
引先、顧客先にお伝えし賛同を得る
ことにはそれほど時間がかかりませ
んでした。

問題は、その間をつなぐ流通の仕
組みです。飲食店で取り扱う食材の
ニーズについては専門なのでよく理
解をしています。受発注のタイムシ
ング、納品時間、配送規格、魚種、価
格など、取引する上で飲食店が何を
求めるかも熟知しています。しかし、
本プロジェクトでどうしても必要と
なる、生産者と飲食店にメリットが

五島列島の鮮魚を
ブランディング

ある流通の仕組みづくりについては、
不案内でした。

五島列島の水産物が日本でも有数
の漁場環境で水揚げされているとい
え、首都圏で流通量を増やすには
知名度の向上が必要です。飲食店の
バイヤーは知っていても、お客さま
が五島列島の鮮魚について知らない
場合しつかり説明ができないと販
売機会を失うためです。

- 五島列島支援プロジェクトの活動
- 五島列島の農水産物、物産品の販売、首都圏流
通の構築、支援
 - 五島列島の観光地の紹介、観光ツアー企画、特
産品の開発、紹介
 - 五島列島のカトリック教会の保全活動、紹介。
五島キリシタン史の紹介
 - イベント企画、チャリティ企画

活動の推進に立ちふさがる
さまざまな課題

現在、五島列島の水産業は負のス
パイラルに入っています。少子高齢
化、人口減少の状況の中で魚価の低
迷、また燃料高により漁に出ると利
益が出ない状況さえあるといえます。
このような状況から漁に出る回数が
減少し、後継者が育たなくなり、水
産業（1次産業）と水産加工業（2
次産業）と連鎖して生産・製造量が
減少しています。



奈留島：巻き網漁船から漁獲した鮮魚を選別
奈留島：漁船にて水揚げ後すぐに梱包
奈留島：1本釣り漁船の水揚げ

信頼関係を構築するために
何度も説明を重ねる

また前述した環境により、漁師が
現場から離れていく一方です。五島
列島、長崎周辺では需要と供給のバ
ランスが取れていないことで魚価が
低迷しています。

そこで、首都圏への流通を開拓し
流通量を拡大して魚価を高めること
が漁師（生産者）に貢献することに
なり、地域活性化の最大の効果を得
ることができると分析し、首都圏へ
の流通構築をすることから始めまし
た。

- ② 鮮度保持の懸念
- ③ 水揚げ魚種の地域性による食文
化の相違
- ④ 築地と五島の競り時の魚価が変
わらない魚もある点
- ⑤ 遠方取引による生産者と購入者
の信頼関係の構築
——— などです。

この時点では関西圏までは五島列
島から直送されているが関東までは
送っていませんでした。そこにはさ
まざまな問題がありました。

当社は東京にあるため首都圏での
営業活動には問題がありません。最
初に感じたことは、誰でも一度は考
えるだろう、首都圏への流通がなぜ
なされていないのかということ、
そこにはやはり原因がありました。

まず本プロジェクトで最初に行っ
たことは、現地に赴いて行政に活動
の趣旨を説明し、水産流通などに関
しての現地の状況を教えてもらうこ
とです。突然東京から地域振興活動
を行うと言われても、地元の方々は
困惑してしまいます。定期的に長崎
五島列島に行き、活動について賛同
していただけるように時間をかけて
説明をして回りました。

同様に、生産者に対しても何度も
説明をして回りました。遠方での取
引になるため、まず信頼関係の構築
が重要となるからです。

そして、川下に当たる首都圏での

こじま よしみつ 株式会社スーパーソニック代表取締役、地域活性化・特産品ブランディング・飲食店コンサルタント。
2000年8月創業。3次産業（流通・外食）マーケティング、コンサルティング指導をはじめ、地域活性化指導、
地域振興活動を中心に1次産業（生産者）活性化と2次産業（製造加工業者）の商品ブランディングを行う。執筆、
企業向け講演など多数。「緑提灯」店の経営相談。盛和塾塾生。

当日水揚げされた鮮魚を漁協の目利きにお任せして直送する
「鮮魚詰め合わせセット」（1万円分）



2011年FOOD ACTION NIPPON製造・流通・システム部門で優秀賞を受賞

と生産者支援につながります。
この取り組みは「五島列島水産流通」として首都圏を中心に飲食店へ直送しています（*注①）。
これらの取り組みは、3次産業のマーケティング側目線から1次産業、2次産業を含めて連携し、活性化する6次産業化の取り組みとして当社で一番重要視しているところで



農家の生業支援のため新上五島町の芋を買い上げ、生産した本格芋焼酎「越鳥南枝」

「重要文化的景観」地域で生業支援を行う

五島列島には国の重要文化的景観

す。消費者のニーズにつながる販路拡大や、加工品の規格、ブランディングなどの仕組みづくりによって、まだまだ生産者側が活性化する可能性は高いと考えています。

この取り組みは全国数千社の取り組みの中から「FOOD ACTION NIPPON 2011 製造・流通・システム部門」優秀賞、「FOOD ACTION NIPPON 2010 製造・流通・システム部門」入賞を受賞しております。

に指定された地域が2カ所あります。「新上五島町北魚目」と「五島市久賀島」です。

文化的景観の定義とは「地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの」（文化財保護法第二条第一項第五号より）となっており、その中で特に価値の高いものを重要文化的景観といいます。

新上五島町北魚目では、北魚目地区の生業である芋の生産増を目指した取り組みで、この地区で取れた芋の原料を買い取り、本格芋焼酎として製造。流通販売を行うことにより芋の生業支援を行っています。

3次産業側の目線から本格芋焼酎の中でも差別化できるように、減圧蒸留での本格芋焼酎を生産、ターゲットを女性にも向けてフルーティな味わいに仕上げ、商品ブランディングを行い、焼酎の販売増を目標に地域活性化を目指しています。売上げの一部は本プロジェクトを通じて世界遺産候補になっている文化財指定の五島列島の教会群の保全に寄付しています。

五島市久賀島では、島にある蔵の原生林と棚田の原風景を維持、

保全することを目的に、久賀島の棚田米と椿油を商品化し、商品を通じて久賀島の認知度向上につながるためにお土産としての規格で商品ブランディングを行いました。

米も椿油も競合が多く、また久賀島は特に高齢化と過疎化が進んでいるため、まずは少量生産でも商品が供給できる規格から考えることにしました。手に取ってもらうことで商品から久賀島を知っていただけよう、買いやすさを重要視して規格と価格を設定。商品の販売が増加することにつれて商品規格を変えていく計画です。特産品の流通が増加することで久賀島の原風景を維持、保全することにつながる取り組みを行っています。

五島列島支援プロジェクトでは首都圏をはじめとして農水産物を流通するために3次産業側の目線で規格戦略を持ってマーケティングの視点から1次産業、2次産業をブランディング開発しています。

多くの地域で同様に高齢化、過疎化によって衰退している地域があると思いますが、どの地域も課題は共通しています。本プロジェクトを通じて全国各地で多くの地域活性化に役立つ取り組みとなればと考えています。

*注① <http://www.supersonic-web.com/gotofish/>